

研究所だより

第341号
2014年7月14日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3016

<言葉遣いは話し上手の基本> 作文・挨拶全書より

① 言葉遣いと性格

人が無意識に話しているとき、その人の性格が話し方や言葉の端々に表れるものです。のんびりとした性格の人はおっとりとした口調でゆっくりと話すし、気短な人は早口でせかせかと話すことが多いでしょう。また、陽気な人はシャレやユーモアに富んだざっくばらんな話し方をし、暗い性格の人は生真面目で人の欠点を探し出すような話し方や、猜疑心のぞくような話し方をします。けれども、自分の性格を自覚していて、これをカバーしようと思う人は、逆に性格と反対の喋り方をします。たとえば、人の良い照れ屋の人がわざと荒っぽい言葉遣いをして照れ隠しをしたりするのは、この例です。

② 言葉のクセ

殆どの人は多かれ少なかれ言葉のクセがあるものです。これは、性格や職業や地域などとの関係が深く影響している場合が多いものです。例えば、陽気な人はシャレやユーモアにあふれた言葉遣いを、陰謀をたくらむような策略家は、曖昧で誠意の感じられない言葉を使い、情熱家は形容詞や感嘆詞を多く用います。学者や役人、特にインテリぶった人には難解語や専門語の崇拝者が多く見られます。職人言葉や方言なども言葉のクセになっていることが多いのです。一般的には、話の終わりにネとかサを連発するクセ、断定的な言葉を使うクセ、曖昧で懐疑的な言葉遣いをするクセ、せっかちな話し方や話がよそにそれるクセ、などはよく見られるクセです。

ある程度のクセは、話に表情をつけ、その人らしさを表す効果がありますが、余りひどいクセは聞き苦しいのでなおすことが望ましいでしょう。ことばのクセは性格や習慣にもとづいたものが多いので、一朝一夕には改められませんが、環境や習慣が変われば、自然になおることも多いのです。

③ 品格のある言葉遣いとは

言葉の品格は、その言葉を使う人自身の品格によって大きく左右されます。たとえ丁寧な言葉遣いでも、度を超すといんぎん無礼な感じを受けるものです。これとは逆に、控えめでもその人の人柄がにじみ出ている場合とか、一言発した言葉が話的を得ていて、いつまでも心に焼きつくような言葉は品格のある言葉です。

広い心や教養をそれとなく感じさせるような言葉は、とっさの場合に出てくるものではありません。日頃の心の修養が大切です。背伸びし過ぎや自分にそぐわない言葉ほど品格を欠くものではありません。目上には敬愛の、目下にはいたわりの気持ちを持ち、節度のある自然な言葉遣いをしていれば、自ずと品格は備わってくるものです。

④ 平易な言葉を使う

平易な言葉とは、それを使う人にも受ける人にもよく理解できる優しい言葉のことです。それは内容が具体的であって日常に使用度も高く、誰でも知っている言葉です。

優しい言葉を使っている文章や会話より、難しい熟語や外来語を使ったもののほうが程度が高いと思いがちですが、決してそうではありません。たとえ崇高な思想であっても、優しい言葉を使って実にわかりやすく言い表すことも出来るのです。難しいことやわかりにくいことを、日常普通に使われている優しい言葉で言い表すことの方が、難解な専門用語を使って説明するより、かえって難しいものです。相手によくわかるように話したり書いたりするためには、自分でもその内容をよくかみ砕いて理解していなければならないからです。話をするとき、わざわざ難しい言葉を使う必要など全然ないと言うべきです。

<夏季休業中 土佐清水市教育研究所行事等予定>

① 7月28日(月) 情報教育スキルアップ講座

時間-14:00~16:45

会場-清水小学校パソコン室

内容-パワーポイントの使い方

講師:福岡 征則 先生(西部教育事務所指導主事)

② 7月31日(木) 外国語活動推進研修会 ~電子黒板等を活用した研修会~

時間-13:30

会場-土佐清水市教育センター会議室

内容-ICTを活用した研修(Hi.friends活用)等

講師:佐々木 徳子 先生

③ 8月1日(金) 教研推進委員会

時間-13:30~16:45

会場-土佐清水市教育センター会議室

内容-一日教研全体会について(基調提案、役割分担等)

④ 8月4日(月) あすなるネットワーク

時間-15:00~16:45

会場-土佐清水市教育センター会議室

内容-「幼児・児童・生徒のカウンセリングについて」

講師:小松 宏暢 先生(清水中SC)

⑤ 8月11日(月) 情報教育スキルアップ講座

時間-13:30~16:45

会場-清水小学校パソコン室

内容-タブレットの使い方と活用法

講師:多田 哲也 先生(県教育センター指導主事)

⑥ 8月20日(水) 土佐清水市教育研究集会(一日教研)

午前-全体会(市民文化会館) 9:00~12:00

講演-「発達障害の子どもに対する支援」 ~今、目の前のこの子にできること~

講師:杉本 陽子 先生(福岡県飯塚市立飯塚小学校教諭)

午後-一部会研修(会場は各部会で) 13:30~16:45

<賢い人ほどよく笑う>-森 隆雄(日本教育文化研究所所長)

「賢い人ほどよく笑う」、これはユダヤの諺である。なぜ賢い人ほどよく笑うのかと思い、解説を読むと、会話の中でユーモアやジョークを言える人、そしてそれを理解できる人は、よく笑うとある。それではユーモアの言える人はなぜ賢いのか、また、ユーモアを理解できる人はなぜ賢いのだろうか。

その答えは、ユーモアやジョークを言えたり、それを理解するには頭脳が素早く反応しなければならないということ。そして素早い頭脳の反応には、二つの前提があり、一つは、「連想力」、次に「多角的な幅広い知識」が要求されるから、ユーモアやジョークを言っていると頭の訓練になるというのだ。近頃わが国でも流行している「脳トレ」には、ユーモアやジョークがよいということにもなる。

要するに、「多角的な幅広い知識」(教養)があり、それに加え「連想力」のある人が、ここでいう賢い人の定義になる。

笑う門には福来たる